

令和元年度第3回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 令和元年10月21日(月曜日)10時00分～12時10分

2 開催場所 市役所3階 301・302会議室

3 出席者

【会長】	中部大学 工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委員】	春日井市 市長	伊藤 太 (代理 前川 広)
	名鉄バス株式会社	
	営業本部運行部運行課長	吉岡 実
	近鉄東美タクシー株式会社	
	運輸部長春日井営業所長	相川 敏行 (代理 下屋敷 輝樹)
	公益社団法人愛知県バス協会専務理事	小林 裕之
	愛知県タクシー協会 春日井支部長	奥村 薫績
	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社	
	取締役	裏見 敏郎
	春日井市民生委員児童委員協議会 会計	馬上 貴美子
	春日井市老人クラブ連合会 副会長	金田 辰男
	春日井商工会議所 副会頭	木野瀬 吉孝
	社会福祉法人春日井市社会福祉協議会 会長	黒田 龍嗣
	春日井市婦人会協議会 書記	伊藤 月美
	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局	
	首席運輸企画専門官	上井 久仁彦
	愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事	熊谷 浩明
	愛知県都市整備局交通対策課 主幹	渡邊 重之
	春日井市建設部 道路課長	荻谷 健生
【事務局】	春日井市建設部兼まちづくり推進部	
	次長	堀尾 朋宏
	春日井市まちづくり推進部都市政策課	
	課長	森 浩之
	課長補佐	三浦 晶史
	課長補佐	松浦 武幸
	主査	花井 輝年
	主査	矢川 将史

主任	米山 創
技師	北 恵伍
ニュータウン創生課	
課長補佐	村上 貴幸
主任	布目 雅範

4 議題

- (1) 協議事項 1 春日井市地域公共交通網形成計画について
- (2) 報告事項 1 実証実験について
 - ・かすがいシティバス夏休み期間の実証実験結果について
 - ・高蔵寺ニュータウンの実証実験について
- (3) 報告事項 2 牛山地区交通の検討について

5 会議資料

- ・令和元年度第3回春日井市地域公共交通会議次第
- ・春日井市地域公共交通会議委員名簿
- ・資料 1 春日井市の公共交通の課題と基本的な方針（案）
- ・資料 2 都市及び公共交通等の現状、市民の移動実態
- ・資料 3 かすがいシティバス夏休み期間の実証実験結果について
- ・資料 4 石尾台地区における自動運転を活用した新しい移動サービス検討ワークショップ
- ・資料 5 かすがいシティバスに関するアンケート調査結果について
- ・資料 6 春日井市シティバスマップ

6 議事内容

- (1) 協議事項 1 春日井市地域公共交通網形成計画について

【北技師】

資料 1 について、説明を行った。

【磯部会長】

内容の整理をすると、1つ目が既存のデータの活用やバス停間をどのように移動しているのかという調査を行った。この調査の一つは、調査員が乗り込んで、実際にどこまで乗っているのか確認を取る調査であり、この期間でも大変な調査ということを理解してもらいたい。また、都市政策課では現在、都市計画マスタープランの作成を行っているため、その都市計画マスタープランの地域懇談会とあわせて、市民の意向を調査している。こちらについては、同じ課で都市計画と公共交通を担っていることをうまく活用できたと思う。

2つ目は、関係者ということで交通事業者からヒアリング結果をまとめて示している。

3つ目は、課題をまとめ、公共交通の基本的な方針（案）に整理している。

ここでは、交通機関、手段をしっかりと作るということ、それがうまく繋がるような交通結節点の整理、行きたい場所の関係者にもかかわらないと交通は成り立たないことから、各関係者が連携していくということを示している。

委員に意見を求めた。

【上井委員】

地域公共交通網形成計画（以下「網計画」という。）は、都市計画と一体となって、将来的に持続可能な公共交通を市はどのように計画して進めていくのかというものである。

今回のように現状の整理、アンケート調査や市民懇談会などから課題が見えてくるため、それを方針や目標という形で示す。また、その方針や目標を実現するため、どのようなことを行うべきか事業や施策を検討し、それをPDCAで見直すため、成果指標の設定を行う。

今回整理した課題や方針は、目標や実現すべき事業の検討を進めるなかで、ボリュームが増えるかもしれないので、全体としてもう少し見ていきたい。

あと何回協議を行い計画策定するのか補足説明をしてほしい。

【松浦補佐】

前回会議の説明と重複するが、網計画は①基本的な方針②計画の区域③計画の目標値④施策・実施主体⑤目標の達成状況の評価方法⑥計画期間の6つを決める。前回の会議で②計画の区域は市全域、⑥の計画期間は5年間にすることが決まっている。

本日は課題を整理したうえで、このような方向でどうだろうか等の話し合いを行いたいと思う。

次回以降に誰が何を行うのかという点を話したうえで、その後に計画案の検討、目標数値の設定方法、評価方法などを話し合い、パブリックコメントで市民に広く意見募集を行う。最後にパブリックコメントの意見を踏まえ計画の修正を行い、計画の公表となる。

先ほどの意見のとおり、施策や実施主体、目標をどう設定するのか議論が深めるにつれて、現況の整理のボリュームが増え、本日晒した基本的な方針案を見直すことは十分にあり。

【渡邊委員】

資料1の駅やバス停周辺への居住や都市機能誘導策との連携について、説明してもらいたい。

人口減少・少子高齢化は全国的なことであるので、春日井市が全国的にどうか、或いは県内の他市町村と比べて進んでいるのかなどを示した方がよい。

75歳以上の高齢者の運転免許証の保有率が低いことについては、他の年と比べた方がよい。また、それに関して増加する高齢者の移動の確保は県としても大きな課題と考えているため、高齢者や障がい者が使いやすい公共交通をどう確保していくのかを示せると良い。

【松浦補佐】

「駅やバス停周辺への居住や都市機能の誘導策との連携」は、都市計画マスタープランや立地適正化計画のようなまちづくりの分野でスポンジ化と呼ばれ、これまで人口増加と

ともに拡大してきたまちの人口が減少することでまばらな人口分布となり、タクシーやバス事業者にとっては、移動距離を伸ばさないとお客を多く拾えないような不利な状況となることに対して、人が集まる生活利便施設を鉄道駅やバス停の周辺に集め、居住を誘導するといったまちづくりの方針と連携をすることである。

人口減少・少子高齢化については、県内の小さい市町村が人口減少している中、春日井市はほぼ横這いの状態であるため、特に進んでいるとは思っていない。しかし、県内の岡崎市、豊橋市、豊田市、一宮市のような大きい市と比べて、どうかといわれるとわからない。今後、更に整理して次回以降に報告する。

資料1の75歳以上の高齢者の運転免許証の保有率が少ないことについては、高齢者にも元気な方から要支援の方まで様々な方がいるため、同資料に福祉施策による補完とあるように、様々な方々についても何らかの形で網羅できればと思っているので、施策のみでなく、方針として見落とししていないという視点での整理もご意見として頂きながら検討したい。

【磯部会長】

立地適正化計画は、JR中央本線駅周辺という大きなポテンシャルを持っている土地の使い方に関して方針を示している。特に春日井市は駅周辺に駐車場が多く、その土地の使い方がまち全体としてどうなのかという話もあり、そこを含めて考えると大きなテーマとなる。

資料1での福祉の話は公共交通の基本的な方針（案）にある3つの方針のすべてに関わるものだと思う、その辺を整理した方がよい。

【木野瀬委員】

福祉的な事や駅周辺への人口集約などの長期的なビジョンの下、地道に取り組みを進めてほしい。

施策として完成させていく取り組みとしては、公共交通の課題の中の利用機会の創出のところである。例えば、介護・高齢者などの買い物弱者が買い物に行くことを楽しむことについては、商工会議所として市内の商店街連合会などと連携して利用機会の創出を行う。

また、民生委員や老人クラブの方にも協力を依頼し、スポーツを楽しむ機会の創出を行い、それにタクシー事業者と連携して相乗りタクシーの促進などできるのではないかな。

このような取り組みが「誰もが出かけたくなる交通環境づくり」になり、また春日井市の独自性がでてくるのではないかな。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【馬上委員】

福祉施策のところでは、高齢者の特に後期高齢者の方は、シティバスや公共交通を利用すること自体が非常に困難な状況である。その中で、私たちは介護タクシーを利用して買ひもの難民の方を清水屋に送迎することに取り組んでいる。

このような高齢者はドアツードアを非常に希望しているため、実際に自宅まで送迎して

いる。

ある集会場所では、老人サロンまで徒歩、その後介護タクシーに来てもらうところもあり、きめ細かく進めている。また、今はテストケースとして狭い地域ごとにケースバイケースで方法を考えて2回行った。

来年度からは大幅にやっつけようと考えている。

シティバスなどの公共交通を利用できる人も、高齢化が進むにしたがって段々少なくなるのではないかと懸念している。

【松浦補佐】

出かけることで頭も体も動き健康維持に役に立つということを昨今言われている。木野瀬委員の発言のとおり、楽しい・生きがいがあるということがこのようなことに働きかけるものであると思うため、イベントがあって楽しいから出かけたくなるという仕掛け作りを乗り物の検討と共に考える必要があると思う。

一方、馬上委員の発言にあるドアツードアについては、歩くことが困難になった人は非常に重要なことであるが、一方で歩いてもらうことで健康増進につながるという部分もあると思う。

どのような方にどういう手段でどういう仕組みで外出を推奨するのかということについて、本日の意見をもとに議論を深めていきたい。

【黒田委員】

資料1の市民意向に「新たな交通手段を含めて再検討が必要」とあるが、この時に具体的に欲しいものは提案されたか。

【矢川主査】

地域懇談会の意見では、今のシティバスが使いにくい、他に違うものもあるのではないかという意見で具体的な何かというものは無かった。

【黒田委員】

かすがいシティバスの運行当初は、黄色くてかわいいと思っている人もいた。

今の乗車率を見ると小さくコンパクトなものでいいという意見もあるが、一方で車イスの利用を考えるとある程度の大きさが必要になるという思いもある。

この辺りをいろいろな方を踏まえて考えてほしい。

【磯部会長】

新しい乗り物や既存の乗り物の活用という話もあるが、公共交通と福祉的な交通の境目は、他市でも議論がされる。

同じ市の中で、違うことを考えていると変な話であるため、他課と意見調整を行ってほしい。

サンマルシェ循環バスと名鉄バスの路線が重複しているところもあるが、それぞれ事業目的が違いうまく成り立っている。難しいと思うがこのようなことをうまく整理できたらと思う。

【吉岡委員】

各交通の役割分担は、磯部会長の発言のとおり持ちつ持たれつといった部分がある。その境目をどのように埋めるのか、非常に大きな課題である。

このようなことを調整しながら進めることでより市全体の公共交通の活性化につながるものだと思うため、より慎重に調整を図りながら進めればと思う。

【小林委員】

多様なニーズに対応すると方針であるが、限られた資源の中ですべてのニーズに対応することは難しい。今はバス事業者やタクシー事業者も運転手不足の中で運行しているため、効率的にできる方法の検討をお願いしたい。

【磯部会長】

本日は協議事項として意見交換を行ったので、事務局は本日の意見を受けて検討を進めてほしい。

(2) 報告事項1 実証実験について

【磯部会長】

本日は、かすがいシティバスとニュータウンの実証実験の2つの報告がある。

かすがいシティバス夏休み期間の実証実験について、説明を求めた。

【米山主任】

資料3について、説明を行った。

【磯部会長】

中学生への利用促進にならなかったことは残念である。

委員に意見を求めた。

【木野瀬委員】

考察の中で、バスに興味を持ってもらうような啓発活動とあるが、これはわかりにくい。

それよりバスで出かける先の対象がなければ、公共交通で出かけたくなる交通環境づくりにならない。

高齢者の割引の実証実験は良いと思う。市民病院など従来の利用だけでなく、それ以外のところに出かけるようなアイデアを出すことが大事である。

【磯部会長】

この実証実験でも行先を含めたPRは行わなかったか。

【松浦補佐】

広報の夏休みの特集で市のイベント情報と関連した形でPRは実施したが、子どもは自転車移動できるため、もともとニーズの無いところにPRをしても利用促進は厳しいと感じた。それよりも、バスに乗ったことない子供やバスをよく知らない子供に乗り方や便利さを知ってもらう活動を行いたい。

【上井委員】

G T F S化はやっているのか。

最近の子供はスマホを使えるので、G T F Sに対応していれば、乗り方教室を行う際に

タブレットなどで行き方を検索できるため、自分の家からの検索を体験するなど1つの方法である。

料金 800 円については、実績などの資料を整理して次回の協議に出してほしい。

【磯部会長】

G T F S とは、国土交通省も推奨しているオープンフォーマットである。

この形式だといろいろな検索サイトに載りやすい。

名鉄バスはやっているのか。

【吉岡委員】

G T F S の形式ではない。

一部の路線はサイトで検索できる。

【磯部会長】

最も進んでいるところだと、バス停以外の場所から徒歩が何分、バス停から何時何分に出発して、何時に着くなど経路や料金が検索できる。

【渡邊委員】

県としてもG T F S 化を進めるため、来年度に市町村を対象として勉強会を行う予定である。現在、県内の 12 ぐらいの市町村がコミュニティバスのG T F S 化をしている。

磯部会長の発言のとおり、G T F S 化することで利用が多いグーグル検索のデータに載る。

【磯部会長】

春日井市の場合は、バスロケーションシステムを名鉄バスと一緒にやっている。

これが一般化することで若い人が検索して利用してくれるかもしれないため、研究を進めてほしい。

【金田委員】

公共交通の企画は高齢者が主な対象だと思う。

アンケートでは、利用者の7割以上が高齢者で、8割の人が満足しているとあるため、高齢者にP R をしてほしい。

高齢者のほとんどの人がスマホ対応は難しい。また、一度だけの周知では認識が薄くお知らせがあったことすら知らない人も多い。

広報や町内会など組織を媒体として重ねてP R を実施し続けてほしい。

【磯部会長】

情報の多元化をするとよい。

高蔵寺ニュータウン実証実験について、説明を求めた。

【村上補佐】

概要を説明。

【布目主任】

資料4について、説明を行った。

【磯部会長】

交通事業者に意見を求めた。

【吉岡委員】

高蔵寺ニュータウン内の名鉄バスの路線網は、他に例を見ないぐらい非常に本数の多いエリアだと自負している。特に、ニュータウンの中心部分は、昼間帯においても10分間隔ぐらい、1時間に6から7本と高頻度に運行をしている。また、朝夕については5分間隔の運行など時間を気にしなくても利用できる環境が整っている。

今回の相乗りタクシーのエリアに高蔵寺駅が含まれていることに問題・課題を感じている。幹線である部分をしっかりと維持しながら地域の公共交通をやっていくべきだと考えると、そのあたりの調整を図るべきであると思う。

素案で検討中との事であるが、実証実験から本格運行になることも想定すると、地域の交通が先細りにならないか懸念している。核となる交通とうまく結節できればと思う。

高齢者対策ということだが、誰もが利用できることも懸念がある。年齢的な部分や取り決めをはっきりさせた段階で設定していければと思う。

今後、慎重に意見交換を行い実証実験に協力をしていきたいと思う。

【奥村委員】

高蔵寺駅からの利用がたくさんあるという想定はしていなかった。

今回は、去年の実証実験のアンケート結果を踏まえ、高蔵寺駅から遠いエリアの人の利用、バスの本数が少ないやアップダウンが激しく移動しにくいといった意見、料金をわかりやすくするといったことを考え進めてきた。

吉岡委員の懸念は理解できるので、今後は市と我々事業者で協議を行いたいと思う。

年齢に関しては、基本的には高齢者をターゲットとイメージしていたが、未成年は受け付けないことが決まっているだけである。

【磯部会長】

関係者で話をしてもらいたい。

今回のゆっくりカートの行先はどこか。

【村上補佐】

移動範囲は、石尾台地区内限定の運行でナフコ石尾台や田島クリニック、石尾公園、バス停等を想定している。

【磯部会長】

路線バスのバス停との乗り継ぎも想定しているか。

【村上補佐】

想定している。

【上井委員】

運輸支局の認可手続き等もあるため、早急に話し合いを行い早めに手続きをしてほしい。

【渡邊委員】

瀬戸市の菱野団地で同じような取り組みを行い、成功事例となっている。

ボランティアの運転手が運行しており、団地内を回り、真ん中の商業施設に乗り入れて

いる。そこにも名鉄バスの幹線が運行しているので、参考にしてほしい。

(3) 報告事項 2 牛山地区交通の検討について

【米山主任】

資料 5 について、説明を行った。

【磯部会長】

牛山地区に走っている路線がシティバスの最後に作った路線である。

公共交通計画全体の見直し時期にちょうど地域住民から意見があがったということであった。

委員に意見を求めた。

【木野瀬委員】

この回答率の高さは、地区の意欲の表れと思う。

そのような地区とは連携しやすいと思うので、実証実験などの取り組みを牛山地区で重点的に行って、その成功事例を全体的に広げるように取り組んでほしい。

【磯部会長】

実際の地域の方々の活動や市の関わり方について、何かあるか。

【松浦補佐】

8月に地区の役員が50人ぐらいの会があり、そこで話し合いをした。

現在、牛山地区とどのような検討体制にするのか話しており、11月末ぐらいからアンケート結果の共有や実例を見学、どのような乗り物が欲しいのか等の話し合いをする予定である。

【磯部会長】

意見を求めたが無かった。

その他

【磯部会長】

議題はすべて終わったが、他に何か発言はあるか。

【渡邊委員】

愛知県エコモビリティライフ県民の集いを開催する。

公共交通をはじめ車、徒歩、自転車などを賢く使い分けて、環境にやさしい交通行動をとうろうという県民運動を進めるものがエコモビリティライフである。

まだ若干名定員に余裕があるため、応募してほしい。

【松浦補佐】

新しい春日井シティバスマップを作製した。

このバスマップは、シティバスだけではなく、名鉄バスやタクシー組合についてもPRできるように作成したことを報告する。

現在、網計画を作成しているが、こちらは国から補助金をもらい作業を進めている。国からこの補助金が有効に使われているのか検証するため、この会議で自己評価を行い、その後運輸局を通じて有識者で構成される第三者委員会にかけて評価すると通知された。

このことについて、上井委員から説明を貰いたい。

【上井委員】

国は公共交通の施策のうち、主に幹線の赤字路線の補助や計画を作成する際の調査に関する費用に対して補助金を出している。

国のお金を使うため費用対効果を厳しく問われることもあり、この会議で了承を取ったうえで、調書を1月24日ごろまでに提出する仕組みとなっている。

【松浦補佐】

この会議で評価する必要があるため、委員全員を集めて会議を行うのか、又は書面決議を行うのか、会長と相談したうえ案内する。

上記のとおり令和元年度第3回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名及び押印する。

令和元年 11 月 26 日

会 長 磯部 友彦

署名人 黒田 龍嗣